

鳥取県 トップアスリート 派遣事業

体力向上
プロジェクト
事業

鳥取県にゆかりのあるトップアスリートが学校等を訪問し、講話や実際の指導を行うことにより、子どもたちに運動のよさや楽しさを伝え、夢に向かって進もうとする児童生徒の運動意欲の向上を図っています。

鳥取市立国府東小学校
こばやしりゅういち
小林竜一さん **ポバースレー**
内容 講演・質問タイム

八頭町立隼小学校
もちだこうたろう
百千田幸太郎さん **飛込**
内容 水泳指導

伯耆町立溝口小学校
うさみりか
宇佐美里香さん **空手**
内容 講演・空手の演武

問合せ先 県教委体育保健課 電話 0857 (26) 7522 FAX 0857 (26) 7542

ふるさと大好き! 地域で活躍する若者たち

ふるさとを愛し、地域の中で積極的に活動する高校生や青年たちの若力を育成するモデル的な取組を県内に広めていこうと、今年度からスタートした「青少年ふるさとキャリア教育活性化事業」。この事業に参加し、それぞれの地域で、イベントに参画したり、ボランティアに取り組んだりと熱心に活動する3つの団体を紹介します。

高校生サークル With you 翼(南部町)

町内の高校生が集い、地域のかたと積極的に関わりながら町のイベントや祭りにスタッフとして参加しています。町外の高校生と交流をしたり、県立大山青年の家の事業に参加したりと活動の場を広げていて、韓国の大学にも訪問し大学生と交流するなど国際交流にも取り組んでいます。



ぺっ! やしろ (倉吉市)

地域をもっと盛り上げようという熱い思いをもった若者の団体。地域を担う若者同士の繋がりを広げ親交を深めようとスポーツ交流会等を企画・運営し、若者による地域おこしを積極的に推進しています。倉吉吹奏まつりを盛り上げようと、やしろ踊り子連に「ぺっ! やしろ」も参加し、地域のかたとの交流も深めています。



ユース(高校生)セミナー(伯耆町)

学校の枠を越え、地域の高校生自らが学校では学べないような活動を企画し、取り組んでいるサークルです。地域の祭りに出店をしたり、ホテルのシェフに中華料理の神髄を学んだりと高校生の視点で企画した活動は、学びの多い貴重な体験となっています。



問合せ先 県教委社会教育課 電話 0857 (26) 7520 FAX 0857 (26) 8175

とっとり農林水産人材育成システム推進事業(県版SPH事業)

農林水産業に関連する専門学科を設置している高校において、地域の産業界や教育機関等と連携し、社会で求められる多様な知識・技術や、専門的な資質・能力を生徒が習得し、6次産業化など地域産業の担い手としての意識や自覚を育みながら地域に貢献する人材として成長できる教育プログラムづくりを進めています。(SPH:スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール)

智頭農林高等学校

地域とつながる林業人材育成事業 ~さらなる連携を目指して~

本年度、本校では「地域の産業界や教育機関等と連携し、社会で求められる多様な知識・技術や、専門的な資質・能力を生徒に習得させ、6次産業化など地域産業の担い手としての意識や自覚を育み、もって地域に貢献する人材を育成する。」ことを目的として県版SPH事業に取り組んでいます。



主な事業の概要は、デュアルシステム等による人材育成プログラムの構築、ICT機器を活用した授業開発と実践等による魅力ある教育プログラムの構築、智頭宿へ生徒が製作した格子と藍染のれんの提供等、伝統文化を活用し地域と連携した取組等です。



境港総合技術高等学校

地域とつながる水産人材育成事業 ~さらなる連携を目指して~

県内唯一の水産学科を有する本校では、5学科が連携して水産関連産業界を主とした地域連携事業に取り組み、各学科の生徒が有する資質・能力を互いに習得し合うことが、より一層高まっています。

総合技術フェア 平成28年10月

【学科間連携によるPR活動】

○水産学科海洋科による活魚の神経締めを実演し、工業学科電気電子科がカメラで撮影してモニターに表示し、来校者へのPR活動をしました。



○水産学科海洋科ではイカ釣り航海実習でイカを釣り、水産学科食品・ビジネス科ではイカを乾燥した加工品を製造しています。生産から加工を一貫して行うために、工業学科機械科ではイカ乾燥機を製作しました。



問合せ先 県教委高等学校課 電話 0857 (26) 7917 FAX 0857 (26) 0408

県立高校土曜授業等実施事業【高校の取組】

平成28年度は倉吉東高校を重点校、鳥取東高校、鳥取湖陵高校、八頭高校、智頭農林高校、倉吉総合産業高校、米子東高校、米子西高校、米子高校、米子南高校、米子工業高校、境港総合技術高校、日野高校の12校をモデル校として、学校・地域が連携・協力した様々な学習や体験活動を実施しているところです。

活動成果

- 大学の授業内容等についてイメージをもつことができた。(鳥取東高等学校 進学情報セミナー)
- 他校生や中学生の頑張りや作品に、相互に刺激を受けることができた。(米子高等学校 デッサン講習会)
- 実際に仕事をされている方の言葉から、仕事に対する情熱や意気込みを感じることができ、大変刺激を受けた。(米子工業高等学校 電気工士実技指導)



問合せ先 県教委高等学校課 電話 0857 (26) 7917 FAX 0857 (26) 0408

米子高等学校 テーマ学習

米×米プロジェクト

米×米
プロジェクト
とは...

- 3年次生が「総合的な学習の時間」で取り組んでいるグループ研究
- 「米子市中心市街地活性化計画」をテーマに、高校生の視点でまちのよいところや直したいところを見つけ、元気になるまちづくりについて提案する学習

1 フィールドワーク [6月]



米子市内の商店街へ行って商店街の方におはなしをきくなど、まちの様子を調べました。

2 ワークショップ [6月]



フィールドワークで気付いたことを地図上に貼り、グループで意見のまとめを行いました。

3 RESAS (地域経済分析システム) 出前授業 [7月]



グループ研究に活用するビッグデータの処理方法を学びました。

4 中間発表会 [9月]

3年次生全24グループが研究方針を発表し、商店街関係者や大学の先生方にご指導いただきました。



5 最終発表会 [11月]

講師の先生から教えていただいた統計資料も用いて研究を進め、「名産物を作って観光客を増やす!」など、まちづくりについての案を発表しました。



ハイレベルなグループ研究を内閣府地方創生推進室主催「地方創生☆政策アイデアコンテスト」と日本政策金融公庫主催「高校生ビジネスプラングランプリ」に応募しました。

この学習をとおり、「仕事の心がまえ」や「前にふみ出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」を身につけるとともに、地域のこと目を向け、地域を担う人材へと成長してくれるよう期待しています。

問合せ先 鳥取県立米子高等学校 電話 0859 (26) 1311 FAX 0859 (26) 1312

シリーズ 鳥取県のエキスパート教員

鳥取県では、優れた教育実践を行っている教員を「エキスパート教員」として認定し、教職員全体の指導力向上を図っています。

今回は、倉吉市立明倫小学校の岡 佳子 教諭(認定分野: 図画工作)にお話を伺いました。

版画は楽しい!

「版画」の指導に力を入れています!

中部地区の小学校では、毎年、冬になると中部小学校教育研究会が主催する「版画コンクール」に向けて、全ての学年での版画制作が始まります。児童にとっても教員にとっても冬は版画の季節です。同じ時期に学校全体で取り組むことで、児童も教員も刺激し合いながら作品づくりに取り組むことができます。教員にとっては、先輩から指導法を学ぶ良い機会となっています。



先輩の版画作品鑑賞

児童は、1年生で紙版画に取り組めます。その後、子どもの発達段階にあわせていろいろな版画にチャレンジしていきます。高学年になると、彫刻刀を使って板を彫る木版画を制作します。学年を重ねるごとに児童の作品は表現力の高い、奥の深いものになっていきます。

「子どもの思い」を大切にしたい指導をしています!

5年生は「はたらく」をテーマに、家族や自分の働く姿を思い思いに描きました。子どもたちは、下絵、墨入れ、彫り、刷りと版画の制作過程の見通しを持ち、自分のテーマが決まると、どんどん制作に取り組みました。

働くとは傍を楽にすることです。子どもたちは彫刻刀で彫り彫り彫っていくことをとおして、働くことの値打ちに気づき、感謝の気持ちを育んでいくことでしょう。子ども一人一人の板には子どもたちの暮らしや思いがいっぱい詰まっています。それらが作品に映し出されるよう、声をかけながら指導しています。

子どもが創る「白と黒で織りなす世界」、彫りが終わって板にインクをのせて刷るのが楽しみです。



彫ることが楽しい4年生

「児童作品には「学び」がいっぱいです!

中部地区は、伝統的に版画指導に力を入れており、たくさんの子どもの可能性を伸ばしてきました。今年度、中部小学校教育研究会図画工作部では、過去5年間の優秀作品をまとめ「くろぼくの版画 第10集」を発刊しました。これは、児童に向けて参考作品として示すことができると同時に、指導者にとっても参考書にもなります。児童の作品から多くのことを学ぶことができますので、ぜひご覧ください。

問合せ先 県教委小中学校課 電話 0857 (26) 7915 FAX 0857 (26) 8170

シリーズ プロ(文化財主事)が教える文化遺産のツボ!

第24回 古代の鳥取ブランド

鳥取和牛・大山どり・大茶スイカなど、本県自慢のおいしい食べものは、品名に産地名をつけてブランド名にしています。このような鳥取ブランドがなんと1300年前にもあったのです。

今回は、出土品から分かる古代の鳥取のブランド品の一つを紹介します。

奈良時代の都平城京から出土した木簡(木の板に文字を書いたもの)に天平5年(733年)の4月に鳥取県東部からの税として鳥取市青谷町夏泊の「水前のわかめ」が天皇の食事の材料用に2.4kgの重さのかご1つ分、都に納められたことが分かる荷札があります。この木簡によって、水前産のわかめが産地指定で天皇の食卓に供された高級ブランドであったことが分

かります。また、「屈賀」という湯梨浜町(旧泊村)の地名がつけられたわかめ(「屈賀前海藻」と書かれています。)の荷札も平城京から出土していますので、今も良質のわかめが採れる鳥取市青谷町から湯梨浜町にかけての岩場は、約1300年前からの伝統があるわかめの採取場であったことがこれらの出土品から分かります。

こんなことを書いていたら、パリパリッとわかめをふりかけたあったかーいごはんが食べたくなりました。



歴史遺産室長 山研 雅美



鳥取市 アブローズ夢夢さん

写真の説明

「因幡国(鳥取県東部) 気多郡(鳥取市青谷町・鹿野町・青谷町) 中男作(七歳)一〇歳の男子が納める税 海藻(わかめ) 大鏡(天皇の食事材料) 水前(現在の夏泊付近) 天平五年四月」と書いてあります。

「海藻大鏡大鏡四斤水前」と読めます。



木簡の赤外線写真 ※奈良文化財研究所撮影

問合せ先 県教委文化財課 電話 0857 (26) 7934 FAX 0857 (26) 8128
鳥取県の文化財情報 HP(とっとり文化財ナビ) <http://db.pref.tottori.jp/bunkazainavi.nsf/index.htm>